

---

# 令和元(2019)年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和元(2019)年9月26日  
栃木県農業環境指導センター

---

## キクビスカシバのキウイフルーツでの発生について

1 害虫名 和名：キクビスカシバ（チョウ目スカシバ科）  
学名：*Nokona feralis* (Leech)

2 発生作物名：キウイフルーツ

3 発生経過

(1) 令和元(2019)年6月にキウイフルーツのほ場において、新梢（一年生枝）及び結果母枝（二年生枝）にチョウ目の幼虫が食入し、枝からフラス（虫糞）が発生する被害が確認された（写真1、2）。幼虫の形態や被害状況からキクビスカシバであることが疑われたため、8月下旬に性フェロモン\*トラップを設置し、9月に調査を行った結果、スカシバ類雄成虫が多数誘殺された（写真3、4）。フェロモントラップに誘殺された個体を農林水産省横浜植物防疫所に同定依頼した結果、県内初確認のキクビスカシバと同定された。

\*キクビスカシバのフェロモンルアーは市販品が無く、鳥取大学中准教授から提供いただいた。

(2) 分布及び発生状況

本種のキウイフルーツでの発生は福岡県（平成16年）、愛媛県及び佐賀県（平成23年）、長崎県（平成24年）、東京都（平成29年）で確認され、それぞれの都県から特殊報が発表されている。

4 被害の特徴

5月頃から新梢の食入部にフラスの排出が見られ、食入された枝は枯死や伸長抑制等が見られる。幼虫は成育するにつれて、基部方向に移動し、直径3~4cm程度の枝での食害が起こる。類似の症状を示すコウモリガの幼虫は、比較的幅広い面積にフラスを糸でしっかりと綴っているため、本種幼虫のフラスとは一見して識別可能である。

5 形態

成虫は、開張30~40mm（雄）、38~45mm（雌）である。前翅は赤褐色、後翅は透明で、頭部、胸部、腹部は全体的に黒色であり、腹部第2、4節に黄色の帯がある（写真3）。卵は長径約1mmの平たい円盤状で小豆色をしており、中心部がややくぼんだ形状をしている。終齢幼虫の体長は約40mm、頭部及び前胸背板は赤褐色、腹部は淡い桃紫色をしている。

6 生態

成虫は、9月上旬頃から年1回発生する。卵は、葉柄基部、枝分岐部等に産み付けられる。卵で越冬し、幼虫は4月頃にふ化し、新梢に食入する。蛹化は枝の内部で行われ、羽化時には蛹殻が半分表面に出た格好で残る。スカシバガ科の昆虫で、マタタビ科の植物を加害することが確認されているのは本種のみである。本種はキウイフルーツの他に、同じマタタビ科の野生植物であるミヤママタタビやサルナシも寄主植物として記録されている。

7 防除対策

(1) フラスの出ている枝を発見した場合は、除去する。

(2) 令和元年9月20日現在、キウイフルーツで本種に使用できる登録農薬は以下のとおりである。

フェニックスフロアブル（4000倍、3回以内、収穫7日前まで、スカシバ類での登録）を幼虫のふ化時期に散布する。スカシバコン L（100本/10a、成虫の発生初期～終期、キクビスカシバでの登録）を枝に巻付け、成虫の交尾を阻害する。



写真1 枝に食入する幼虫



写真2 被害枝から排出されるフラス



写真3 トラップに誘殺された雄成虫



写真4 トラップに多数誘殺された雄成虫

## 8 引用文献

窪田聖一ら(2017):植物防疫 第71巻第7号 30～33.

---

詳細は、農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せ下さい。  
病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi\_nousei)」、農業環境指導センター ホームページ（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。